

NICUにおける面会のあり方の検討

1-4 東 ○松浦夕子 下瀬茂美 富本恵美 高木啓子

I. はじめに

NICUは救命・児の成長発達場であるとともに、親子関係が始まる場である。そのため、NICU入院となる児と両親にとって面会の重要性は高まってきている。

池内¹⁾は、「人生の第一歩である大切な時期に、余儀なく親から引き離されてNICUで過ごす子どもたちにとって、両親（とくに母親）の面会は、母子愛着形成を育む重要な機会として位置づけられる。」と述べている。当科では、感染予防・治療や看護の制約から現在の面会方法（表1）を設定している。しかし、本来なら24時間一緒にいられるはずの親子にとって、この面会方法や面会環境は適切であるかという疑問を感じた。

そこで、両親が現在の面会方法に満足しているかどうか調査し、面会がより充実したものとなるように、今後の課題について検討したので報告する。

表1 現在の面会方法

時間帯	13:00~15:00	18:00~22:00
回数	1日1回	
入室者	両親のみ	

II. 研究方法

1. 対象

文書により研究目的の説明を行い同意を得られたNICUへ入院した児の両親72名

2. 調査期間

平成15年6月20日~7月7日

3. 調査方法

独自で作成したアンケート用紙を用いて、NICU入院中の児の両親と、すくすく外来受診時の児の両親にアンケートを配布し、留置回収法により調査紙を回収した。回答は無記名とし個人が特定されないように配慮した。

調査内容は、1)面会時間、2)面会回数、3)面会者、4)面会時の環境、5)看護師の対応の5項目とし、最後に自由記載欄を設けた。

4. 分析方法

質問項目の4) 5)に関しては、5段階の尺度評価を行い各項目に平均点を求めた。逆転内容の項目については逆転の尺度評価を行った。統計学的に一元配置分散分析によって有意差を求め、5%水準をもって有意差ありとした。

III. 結果

アンケートの回収率は95.8%（72人中69人回答）、有効回答率100%であった。

現在の面会方法のままでよいと回答したのはわずか10.1%であり、約90%の人はなんらかの改善を求めている(図1)。これらのうち、面会時間については、「現状のままでよい」48%、「時間帯を延長して欲しい」22%、「24時間フリーにして欲しい」30%であった。時間帯を延長する意見としては、「午前中にも面会時間を作って欲しい」「15:00~18:00の間も面会できるとよい」が多かった。面会回数については、「1日1回の面会でよい」32%、「1日2回の面会がよい」59%、「1日3回以上の面会がよい」9%であった。面会者については、「両親のみの面会でよい」32%、「祖父母も面会できるようにして欲しい」64%、「その他」4%であった。その他には、同胞の面会を希望する意見があった。以上のことから、方法の改善を求めた人の多くが望んでいるのは、時間帯の拡大・面会回数の増加・面会者枠の拡大であった。

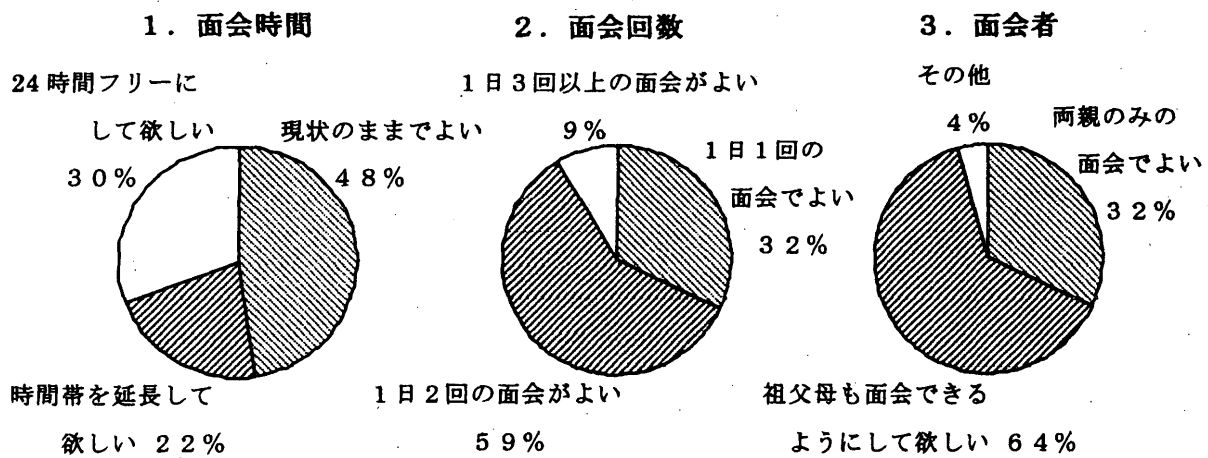
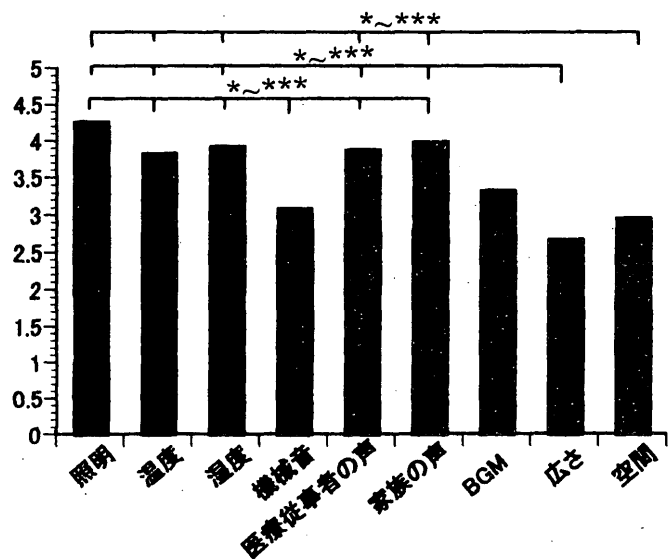


図1. 面会方法の改善について

面会時の環境(図2)については、「機械類(モニター)の音が気にならない」「面会時はゆっくりとお子様と過ごせる十分な広さがある」「家族だけの空間をもつことができた」の3項目が、「NICU内の照明の明るさは適切である」「NICU内の温度は適切である」「NICU内の湿度は適切である」「医療従事者の話し声が気にならない」「他の家族の話し声が気にならない」のそれぞれの項目に対して有意に低い値を示した($p < 0.001 \sim 0.05$)。両親は一般的な室内環境よりも、児に面会しているときの警報音や家族の空間に敏感になっている点が明らかになった。



* $p < 0.05$, *** $p < 0.001$

図2. 面会時のNICU環境の満足度

看護師の対応 (図3) については、すべての項目にわたり高い満足度を示していた。しかし、「心配な事・不安な事を看護師の方からたずねてくれた」、「赤ちゃんに接するときはずっと側にいてくれた」「育児指導」の3項目が「入室時から笑顔で優しく接してくれた」「面会時にはいつも声をかけてくれた」の2項目それぞれに対して有意に低い値を示した ($p < 0.01$)。両親は接遇面での満足度を高く評価しているが、育児指導や不安の傾聴など児に対する関わりでは低く評価していた。

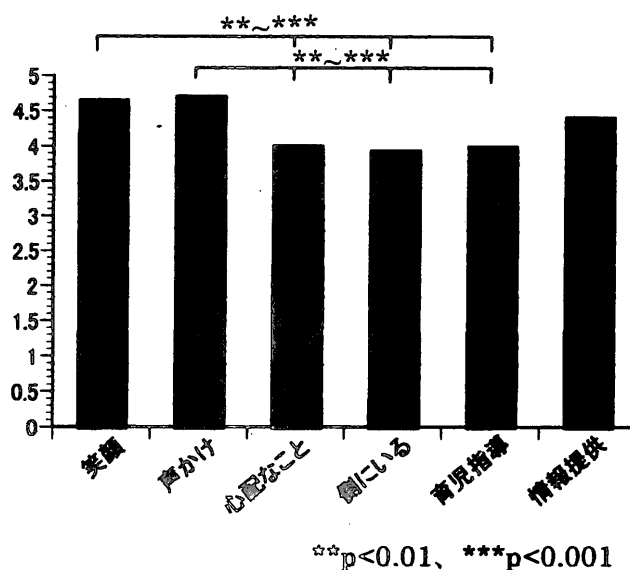


図3. 面会時の看護師の対応における満足度

IV. 考察

今回の調査により、現在の面会方法は両親にとって満足が得られていないことが明らかになった。面会時間については、時間帯の拡大を求める意見が多く、両親が児と面会できる機会を増やして欲しいという思いが表れていた。父親の仕事の勤務体制や同胞の面倒を見てくれる人がいない、同胞が幼稚園に行っている午前中しか面会に来られないなどの理由により、現在の面会時間内では毎日会えない等が理由としてあげられる。横尾の調査²⁾によると、当科のように「毎日だが時間帯を制限している施設」は75.6%、「24時間フリーの施設」は年々増えているものの13.3%にすぎない。児の治療やケアなどの状況を考慮しながらも、面会時間帯の拡大を図る必要がある。面会回数においては、1日2回以上の面会を求める意見が多く午前と午後に会いたいという意見が多かった。その理由としては、授乳の時間、沐浴の時間、検査の時間、啼泣しているとき、起きているときなど、我が子のいろいろな活動場面を見たいという意見があった。特に、沐浴は午前中に行われるため両親は写真でしか見ることが出来ない。面会を重ねることにより、両親は児の1日における成長を見ることができ、児の仕草や表情の変化を理解できるようになる。それにより、親としての喜びを得ることができ、自信を持つようになるので、退院後の育児を円滑に行うためにも面会回数の増加が必要である。面会者については祖父母の面会を希望する意見が多かった。これは我が子を祖父母に見て欲しいという両親の思いと祖父母が児に会いたいという思いによるものと考えられる。横尾の調査²⁾でみると、祖父母の面会を許可している施設は特別な場合に限ってのみ55.6%であった。核家族が増えている現在、退院後の家族のサポートとして祖父母の面会の必要性は高く、児の成長を両親と共有する意義は深い。しかし、同胞の面会と同様に感染面を懸念して積極的ではないのが事実である。

面会時の環境については、結果が示すように「NICU内の照明の明るさは適切である」「NICU内の温度は適切である」「NICU内の湿度は適切である」「医療従事者の話し声が気にならない」「他の家族の話し声が気にならない」(以下、一般的な室内環境と示す)よ

りも、「機械類（モニター）の音が気にならない」が有意に低かった。これは、両親が一般的な室内環境にはそれほど興味はなく、我が子の生命に関わることに敏感に反応していると考えられる。児は状態観察のためにさまざまな機械を装着しており、設定値からはずれると警報音が鳴る。両親は警報音が鳴ると敏感に反応し、児との楽しい面会時間は一時遮断される。私たちは警報音の音量をNICU内のどこにいても聞こえるように設定しており、児の生命を守っている。そのため、入院時に警報音の必要性を説明し理解してもらうように努めていかなければならない。また、一般的な室内環境よりも「面会時はゆっくりとお子様と過ごせる十分な広さがある」「家族だけの空間をもつことができた」も有意に低かった。NICUの構造上とその時の患児数により、同じ時間帯に面会者が集中すると一家族のスペースはおのずと狭くなる。1日に限られた時間しか会えない親子の時間をゆったりと過ごしてもらえようように配慮しているが、さらに工夫が必要である。

最後に、看護師の対応については、看護師の接遇よりも我が子に対しての看護師の具体的な行動についての満足度が有意に低かった。面会時の環境と同様に両親は我が子に関することに敏感に反応している。初めての子どもはもちろん、二人目以降の子どもであってもNICUへ入院するということは両親にとっては不安である。そのため、「心配な事・不安な事を聞いて欲しい」「オムツ交換や授乳方法を教えて欲しい、行うときは側で見たい欲しい」というように看護師の関わりを求めている。私たちは両親と児が関わる時間を家族だけで過ごすための重要な場として認識している。一方で、限られた看護師数で複数の面会者の対応にあたるには不十分であることも多い。児に最良のケアを行いながら、面会者が満足する対応のあり方について模索していかなければならない。

Harrison³⁾は「医療者は親と協働してNICUを子どもに適した環境にすること」と述べている。医療従事者の考えだけではなく両親の考えを取り入れて、児にとって良い環境と一緒に作っていくことがこれからのNICUにおける面会の課題と考える。今回調査によって得られた意見を参考に現在の面会方法・面会時の環境・看護師の対応を改善していきたい。

V. まとめ

NICUへ入院した児の両親に対して、現在の面会方法・面会時の環境・看護師の対応について満足度に対するアンケート調査を行った。

1. 両親は、時間帯の拡大・面会回数の増加・面会者枠の拡大を求めている。
2. 面会時の環境の中で一般的室内環境よりも児と接する際の家族を取り巻く環境に対する満足度が低かった。
3. 看護師の対応については、接遇面では高い満足度を示したが、児に対する関わりについては低い満足度を示した。

今回の調査をもとにして今後、現在の面会方法・面会時の環境・看護師の対応を改善していく必要がある。

謝辞

本研究を行うにあたり質問紙調査にご協力下さいましたご両親をはじめ、ご指導を頂きました山口大学医学部保健学科戸部郁代先生に対し深く感謝いたします。

<引用文献・参考文献>

- 1) 池内和代：面会、Neonatal Care NICU チームで取り組むファミリーケア、春季増刊、
p 64-69、2002
- 2) 横尾京子：アンケート調査報告 [2] NICU における家族の入室面会、Neonatal Care、
vol. 9、p 19-24、1996
- 3) Harrison. H : The principles for family centered neonatal care、Pediatrics、92(5)、
p643-650、1993
- 4) 横尾京子：どうしていますか？家族の面会 (2) NICU における面会のこれから、Neonatal
Care、vol. 12、p 9-20、1999
- 5) 吉川るみ子：NICU における面会のあり方、沖縄県立那覇病院雑誌、vol. 11、p67-70、
2001